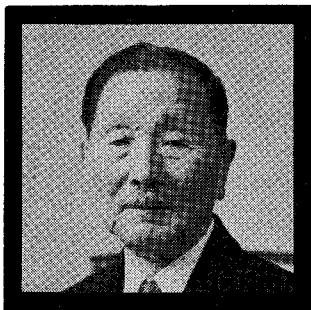


故 名 譽 会 員 牧 野 雅 樂 之 丞 氏 を し の ぶ



牧野さんが8月14日午後6時急逝されたと遠藤貞一さんからご通知を受けた時は、全く晴天の霹靂でわが耳を疑ったのであった。14日は月曜日で毎週月曜日には旧内務省建設省出身のもので経営している共栄興業の役員室に関係者のわれわれが参集し昼飯をともにしつつ歓談するのが常であり、牧野さんも顧問なのでいつもお元気なお顔を見せ、お得意の碁で芥川氏や内村氏を手玉にとるのを楽しみにしておられたが、この日はお見えにならないので、あるいは盆でお国へでも帰られたかな……など話合っていたのだった。

牧野さんは私と同郷宮城県佐沼町出身、伊達家の支藩佐沼城主の城代家老の家柄で雅楽之丞という現代離れのお名前がそれを物語っている。明治16年1月のお誕生だから満で84才8月となる。中学は東京で卒え二高を経て明治42年東大土木を卒業された。だから私にとっては郷里、二高、東大とすべて先輩でありかつ内務技師としてもまた先輩になる。牧野さんは卒業してただちに内務省に入り、始めは東京市区改正委員会の水道拡張調査に従事されたが明治44年12月内務技師に任官されて東京土木出張所勤務となり利根川改修工事に従事された。大正7年7月米国に出張、始めは水力電気視察であったが中途から道路視察を命ぜられ大正8年帰朝し日本最初の道路法制定に牧彦七博士とともに参画、道路行政の確立に寄与された。大正10年12月には道路会議幹事を命ぜられ同11年9月土木試験所兼務となり同13年12月土木試験所長に任ぜられ土木局第一技術課を兼務しもっぱら道路の管理監督に当られた。大正15年5月イタリヤのミラノにおいて開催の万国道路会議に出席し、欧州各国の道路を視察して帰朝された。

昭和2年7月帝都復興局技師高等官二等となり、土木部道路課長兼道路試験所長として関東大震災後の東京市の街路復興整備に努めた。同5年12月内務技師兼任土木局勤務となり、同6年4月には内務技師専任となり国道改良係主任を命ぜられ、失業救済土木工事の一環たる直轄国道を主宰しわが国国道改良に寄与された。同9年5月下関土木出張所長となり同11年12月退官されるまで九州地区の国道改良ならびに河川港湾の修築に尽瘁された。

越えて昭和12年6月日本建設技術の海外進出を目ざして八大建設会社連合の共栄社発足するや技術長を嘱託されてメキシコに赴き同国のパンアメリカン・ハイウェイ建設工事の調査企画に従事された。

14年1月請われて京都市土木局長となり京都市政に貢献するところあったが、16年7月共栄社の後身と見なされる海外興業株式会社設立するやその副社長に招聘されて京都市を辞した。かくて東南アジア諸国ならびに北支の公共事業の調査に挺身したが、日支事業に引続く世界大戦に阻まれて会社は19年12月解散を余儀なくされた。しかれども日本が今日盛大になりつつある海外進出の先駆たる功績は没却できない。

牧野さんはその後も日本道路協会を通じてわが国道路の発展に献身し、22年6月には同会名誉会員に推薦された。また24年には宮城県流水審議会委員に、26年には同県都市計画審議会委員として郷土のため永くつくされ、29年には内閣から国土開発中央道調査審議会委員を命じられた。

一方学術的には多年土木学会常議員または主事として学会につくされ33年5月には同学会名誉会員に推せんされた。また「道路工学」の著書もある。つぎに内務省建設省出身の技術者団体である旧交會会長としてその発展につくされ今日約300名の多数を擁し隠然たる勢力をなしているのも牧野会長の力量ならびに徳望に負うところ実は大である。

牧野さんは資性誠実、穏健、無慾恬淡、そのあるところ、つねに春風駘蕩の趣があり、われわれ後進にはまたとない指導者であった。80余才にもかかわらず髪は黒々として、童顔に笑をたたえ些も老人を感じしめず、いつもご健康そのものであったので、かくのごとく突如幽明境を異にするなど夢にだに考えなかつたので、哀惜の情一しお切なるものがある。

ここに牧野先輩の生涯を偲んでひたすらご冥福を祈るのみである。

(名誉会員 高橋嘉一郎・記)